

## 惜別・澤木仁さん

写真家で健生会友の会山歩きクラブ会員



↑二上山のアセビ(撮影澤木仁さん)

の澤木仁(まさし)さんが2月1日他界された。3日に行われた告別式には、山歩きの仲間たちも参列し、澤木さんとの別れを惜しんだ。

澤木さんは山歩きをよくされ、全国各地で撮影した風景写真は香芝市その他での美術展・写真展に出展されて各種の賞を得るなど注目を浴びていた。特に二上山とそこでの四季折々の花の撮影に熱心に取り組み、"二上山に咲く花々写真展"を広陵町の喫茶店で開催、またそれらの集大成として、写真集「二上山に咲く花々」、「二上山に咲く花々Ⅱ」を刊行された。こ

の2冊の写真集は山と花の愛好者に愛読され、香芝市民図書館にも3冊ずつ収められている。

### 山の花を大切にされた澤木さん

澤木さんの花の写真は美しい。写真を観ればよく解るが、自然の中に咲く花の魅力を最大限引き出すための努力を澤木さんは惜しまなかった。そのために必要とあれば、雨の日でも霧の中でも現場を訪れたし、早朝や夕刻に撮影することもしばしばだった。

二上山は低山ながら、自然林が多く、植物の種類も豊富だ。中には絶滅危惧植物とされる種も自生している。特に県内自生初報告とされる種もあった。これらの種については同定を頼んだ植物の専門家から「公表しないように」と釘を刺された。カメラマンとしての澤木さんにとっては苦渋の選択だったろうが、写真集ではそれらが省かれていた。自然と花を大切にする澤木さんならではの事だった。



↑もうすぐ二上山に咲くダンコウバイ(撮影澤木仁さん)

### 好子夫人の"お礼の言葉、"

告別式の最後に好子夫人がマイクを握って会葬者へのお礼の言葉を述べられた。思いのこもった挨拶は参列者の胸に響いたし、配られた葉で、故人に「たくさんの思い出とたくさんの愛情をありがとう」と呼びかけ、「本人は幸せだったと思います」と締めくくられた。いい送り言葉だった。

## セキショウ (石菖)

ショウブ科ショウブ属

写真 故・澤木仁さん

花期は4～5月

祐泉寺から馬の背への道のそばで、谷川の水辺に群れて自生。常緑の剣状の葉を茂らせていますが、春から初夏にかけて黄褐色の肉穂花序（にくすいかじょ・長さ 7～10cm）を出し、そこに小さい花を密に咲かせます。名は石を抱く菖蒲の意

根茎や葉は薬草として用いられ、神経痛や痛風の治療に使用されています。

例えば蒸し風呂（湿式サウナ）で用いられる時には、セキショウの葉を床に敷いて高温で蒸す状態にして、鎮痛効果があるテルペンを成分とする芳香を放出させて、皮膚や呼吸器から体内に吸収するようにして利用するそうです。

（下7行は{WIKIPEDIA}より引用）



## コブシ (辛夷)

モクレン科モクレン属

花期は4月 花言葉は友情、友愛

早春の山を代表する白い花で、芳香があります。二上山では葛城市のふるさと公園と大阪府河南町の登山口・万葉の森にそれぞれ植えられていますが、雌岳～原岳～麻呂子山の稜線にも自生しています。

花の下に葉が一枚付くのがタムシバ(同時期によく似た花を咲かせる同属の植物)との違いです。

和名の由来は蕾や果実が人間の拳に似るからとの事。

昔から、この花の開花が田仕事を始める目印とされたそうです。

